

財団だより

# 多摩川

1981. 9. 第11号



多摩川中・下流の汚れた  
水域にすむセスジユスリカ



野川の河川敷を埋める セイタカアワダチソウ

## ■多摩の地名■

### ③ 多摩の語源

ではタバとはどんな地名の由来があるのであろうか。

〇タバは山中の平坦な土地のこと

まず『分類山村語集』（図書刊行会刊）のタバをみると伊予から土佐にかけての山間に多い地形の名、山側の平坦な土地といひ、又は高い処にある広い原野とも謂つている。ナロといふのも平地のことだが、此方は人里近くにあるに反して、タバは必らず山中にあるといふ。なほ起りはタワであつて、平地の奥まつた処といふ意味であるかも知れぬ。

とある。四国では「タバ」は「ダバ」とも同義で、「駄馬」と書く。「駄馬、または～駄馬（何々駄馬という地名。著者）は、南予・西土佐にかけて数多く見られる地名群落である。

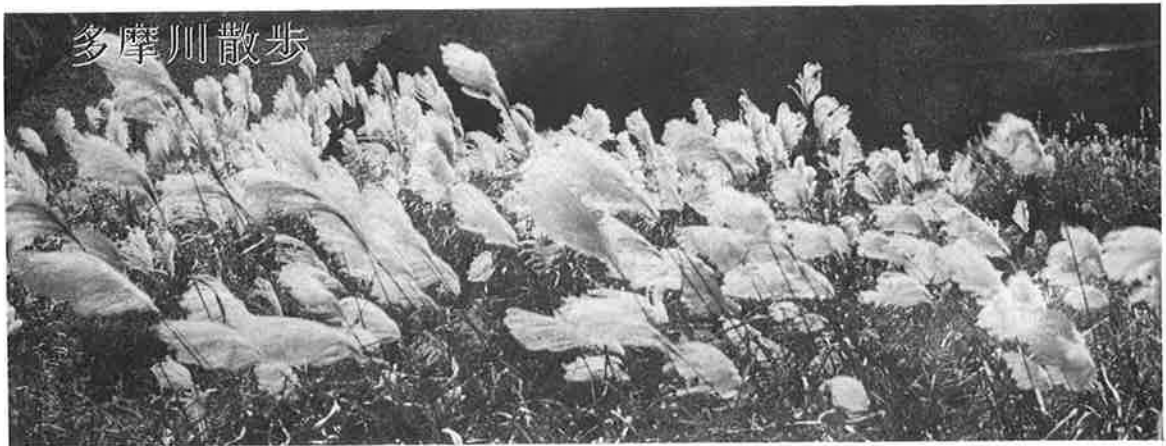
この地名は山中もしくは谷中のちょっとした平坦地、あるいは緩斜地につけられているが、尾根筋つまり山頂の平坦地などにもつけられている。海沿いの平坦地にもあるので、平坦地を第一義とする言葉である」（山口恵一郎氏『地名を考える』115頁）といわれる。

四国の「ダバ」は「タバ」であり、それは「山中または谷合の平坦地をさす言葉」であることがわかったのである。

奥多摩町には大丹波、小丹波集落があり、多摩川上流山梨県に越えると丹波山村がある。それらの村々は、山間の狭い平坦地を生活の場とするタバ集落である。

（次回続く）

（多摩の地名・保坂芳香・1979・武蔵野郷土史刊行会）



オギの群落

### ●多摩大橋から日野堰へ

6月はじめの環境週間に、多摩大橋から八高線鉄橋、日野用水堰の附近を歩いた。このところ毎年という訳ではないが、春秋の候、この辺りから拝島橋にかけて歩く機会が続いて、どうやら多摩川の中では最も親しみ深いフィールドの一つとなってしまうようである。

大橋のたもとから、オオヨシキリのしきりと鳴くオギやヨシの原を抜けて昭島市寄りの流れの際に出ると、第三紀の頃は海の底だったという砂質粘土状のナメが広く露出し、侵食されて洗濯板状になった処や小さな池や凹地が散在していて子供達の恰好の遊び場となっている。釣人が対岸の流れに沿ってテトラポット上に隙間なく居並び、釣竿が何百本と並んだ様は仲々に壮観である。

居合わせたお年寄が、昔は一面石のゴロゴロした河原で、ナメはもちろん草もろくに生えていなかったと述懐していた。

川砂利の採取もこのあたりは昔からずい分盛んだったようで、あちこちに大きな砂利穴の池があって、全面採取禁止となった昭和40年以後も水難事故が絶えなかったようである。42年秋、この池の一つにタヌキモが群生しているのを、発見した昭島小の先生の御案内で見せて頂いたことがあったが、こどもその後埋められてグラウンドとなってしまった。

### 八王子自然友の会幹事 畔上能力

6月初旬の河原にはこれといった目立った花も少なかったが、それでも気をつけて見ればミゾコウジュやカワジシャなど小さな愛らしい花も咲いていた。河原特有のテリハノイバラ、カワラサイコ、カワラニガナなども間もなく咲き出す事だろう。遠くでカッコウが鳴いていた。

それにしても、この季節の河原は緑一色だ。その中で最も広大な面積を占めているのはオギで、やがて10月から11月にかけて白銀の穂波を河原一面になびかせる。このオギ原こそ多摩川中流域を代表する景観であり、それ故に晩秋こそ中流域の最も美しい季節と言えよう。私もそれが目当てで毎年晩秋の頃になるとこの地へ歩を運ぶのである。

これから夏の間、河原の礫地を彩る花にメマツヨイグサがあるが、以前は確かに花の大きなオオマツヨイグサばかりであったと記憶している。そこで昔の写真を繰ってみたら昭和29年7月、拝島橋上流で写したオオマツヨイの群落写真が出てきた。昭和37年同地を再訪した時の記録にはもう見当らないから、この間にとって代ったと考えてよからう。

多摩川をとりまく環境が年々変化して行く中で、多摩川自体もその影響を確実に受けて変化していく姿を、私の場合は植物の生活を通して、より強く感ずるのである。

## 私と多摩川



現在の調布取水堰

私は、いま教師をやっているが、昭和9～43年の間、東京都水道局の祿を食んでいた技術者である。従って多摩川とのつき合いは、長くかつ深い。

東京水道の水源としての多摩川依存率は、明治31年の創設以来100%であったものが、私の入局時には81%となり、退職のさいは39%に減じ、現在は21%に落ちこんでいる。さらに現行拡張事業が完了をみる昭和70年頃には、16%にまで下がることが予定されている。これは昭和7年以降、他系統の水源、とくに戦後は相模川のほか利根川水系が大量に導入された結果である。

しかし減ったのは比率の上の話であって、多摩川水源の絶対量は、小河内ダムによって大きく増えたままであり、将来にわたっても減ることはないはずである。そして自己行政区域内にあり、しかも自前取水である多摩川の水道水源としての価値は、いささかも揺るぐことはないであろう。

もちろん水道の水源は、水量さえ確保されればよいというものではない。昭和45年9月、水質汚濁の激化から、玉川浄水場が取水を停止したとい

東洋大学工学部教授 扇田彦一

うニュースは、在職中、高汚濁原水との戦いに苦勞をなめた一人として、私には大きなショックであった。恐らく全国はおろか、世界の水道史にも類のない事件に違いない。水道局の悲願である水道用取水の再開は、果していつのことであろうか。

多摩川の汚濁は、昭和32年頃から兆し始めた。そしてついに、あの悪夢のような一夜が訪れた。昭和36年1月30日、これは、わが国の水道原水にABSの発泡現象が初めて顕在化した日として特筆に値する。当夜11時頃、急報で玉川浄水場に駆けつけた私たちは、多摩川からのポンプ揚水が吐き出される着水井に、夜目にも鮮かな白い泡の山が高く盛りあがり、音もなくモクモクと溢れ出ている異様な光景に、しばし呆然と立ちつくしていた。

ABSという言葉すらよく知らない頃のことであるから、翌朝すぐ係員は、事故を起こしたであろう石鹼工場を求めて上流一帯を調べまわったが、むろん無駄骨であった。

東京創設水道は、玉川上水路（代田橋下流を除く）をそのまま活用して、多摩川表流水を羽村から新宿西口まで導き、淀橋浄水場で浄化してから、鑄鉄管で市内に給水した。浄水場位置選定を含む基本構想・設計・施工ともに、現在の技術水準に照らしても立派なものである。蒸気ポンプ用石炭の黒煙を吐く2本の高い煙突は、長く新宿の名物として市民に親しまれた。

この淀橋浄水場は、なお数十年の余命を残しながら、昭和40年3月31日をもって、67才の生涯を閉じた。新宿副都心建設計画に協力するためである。この日、たまたま悪い廻り合わせで、配水ポンプを永久に止めるボタンを押し、正門の看板を取りはずす役を演じたのは、ほかならぬ私であった。

どうも、ここ20年来の「私と多摩川」との係わり合いには、あまり楽しくない思い出がつきまとうようである。

よみがえ

## 甦れ！多摩川

## ●多摩川シンポジウム'81—あすの多摩川を考える—

毎年6月5日から始まる環境週間は、今年で9回目を迎えた。この環境週間は、1972年、国連の人間環境会議が、人間環境宣言を採択した6月5日を、世界環境デイとしたことにはじまる。

今年も、日本の各地で環境週間のさまざまな催しが行なわれた。

この環境週間からやや時期がずれるが、6月21日、「あすの多摩川を考える」と題して、狛江市福祉会館でシンポジウムが開かれた。このシンポジウムの主催者は、「多摩川の自然を守る会」と「多摩川水系自然保護団体協議会」で、活動を始めてからちょうど10年目を迎えるにあたっての記念行事でもあった。

多摩川の自然を守る会の運動は、新聞やテレビや雑誌などで数多く取り上げられ、全国の自然保護運動にも多大な影響を及ぼした。しかし、最近、マスコミのとりあげかたもやや落ち着きを見せていると同時に、会の運動そのものも次の段階にさしかかってきた。それは、建設省の河川環境管理計画にみられるように、単に自然を守るための運動だけではなく、多摩川の自然を今後、どう管理し運営していくかといった各論の問題に対し、会の考え方を示していかなければならなくなってきたからである。

今回行なわれたシンポジウムは、6名のマスコミ関係者を招き、「10年前の多摩川の取材を顧みて」、「自然保護運動10年の現実と課題」、「建設省河川環境管理計画と今後」などの講演から始められた。

午後からは、講演者を囲んで討論会に入った。流域の内外から住民運動のグループや住民多数が参加し、熱の入った討論になった。しかし、そのほとんどが、「一貫した取材で継続的なとりあげかたをしてほしい」とする住民の意見と、「マスコミの取りあげる内容と報道の限界」についての意見交換であったように思われる。

これまでは、自然保護については、「自然を守ろう」という主旨だけで多くの同意を得られてきたし、マスコミにも取りあげやすい状況にあった。しかし、今では、自然をどう守り、許容できる範囲でどう利用していくか技術的な提案をしていく時期になっている。しかも、あらゆる角度から研究を重ねたうえで、よりよい方法を模索していかなければならない。

多摩川は、首都近傍河川の中では住民のねばり強い運動によって比較的自然的の多い河川として残されてきた。そして、この自然は、多摩川流域に住む住民にとってばかりではなく、首都圏の中でも貴重な財産である。多摩川の自然を守る会では、この自然を自然教育に利用していこうとする考えから、数年前、「多摩川自然教育河川構想」を提案した。この構想は、昨年発表された「多摩川河川環境管理計画」にも少なからず影響を与えたことは確かである。しかし、これはまだ構想の段階であるし、又、多摩川流域全体からみると、まだほんの一面でしかない。これを具体的に計画し、実施の段階まで持っていくには、充分研究していく余地がある。

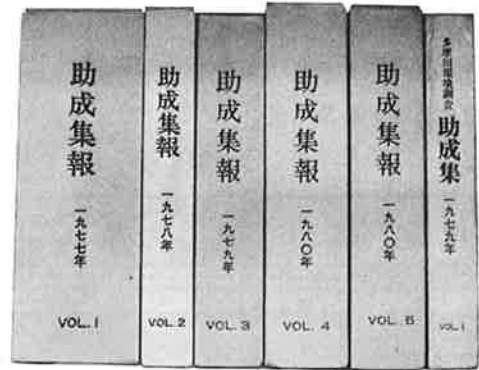
複雑な問題を抱える多摩川を甦えらせるためには、河川管理者と住民とあらゆる研究機関が総力をあげても長い時間を要しよう。しかし、お互いがそれぞれの立場でできる範囲の努力を重ね、それを集約して問題に対処していくことが、最も近い道でもある。

シンポジウムの最後に、主催者のある住民が、「私達住民は、これから、目の前の自然保護を単に訴えるだけでなく、例えば、水の節約といったことが自然を守ることにつながっていることを自覚していかなければならない。」としめくくった。この言葉の中に、住民運動のこれからの新しい転換の決意が良く表われていた。

# 財団の事業紹介

## 〈研究助成1〉

昭和56年度（第1次選考）研究助成課題が、このほど決定しました。今回決定した研究はA類継続研究13件、A類新規研究8件、B類継続研究5件、B類新規研究2件、合計28件です。新規研究課題は次のとおりです。



現在までに発行された助成集報・助成集

研 究 課 題	代 表 研 究 者	所 属
〈A類研究〉		
●多摩川に発生するユスリカ類の種類・分布とそれらの水質指標性および水質汚染浄化能の研究	佐々学	東京農業大学総合研究所教授
●大栗川流域における土地利用が河川水・地下水の水質に及ぼす影響に関する研究	小倉紀雄	東京農工大学農学部助教授
●多摩川水域の環境水および魚介類の細菌相に関する研究	出口吉昭	日本大学農獣医学部教授
●多摩川流域を代表する鳥類数種の個体群行動と場所および繁殖分布に関する調査研究	柿澤亮三	駒山階鳥類研究所研究員
●多摩川中流域におけるカタクリ群落の分布と生態および保護育成に関する研究	鈴木由告	都立上野高校教諭
●都市化過程に於ける水利システムの総合的研究〔多摩川流域をケース・スタディとして〕	玉城哲	専修大学文学部教授
●多摩川下流域における土地・地下水環境に関する研究	長沼信夫	駒沢大学経済学部教授
●多摩川中流の河辺植生における多様性の成立機構についての研究	佐伯敏郎	東京大学理学部教授
〈B類研究〉		
●多摩川上流における淡水魚（特に溪流魚）類の生について	野口光世	奥多摩町立小河内中学校教諭
●多摩川沿いの多摩丘陵東縁部の地下水の性質〔硫酸イオン動向と水温を決定する要因について〕	青柳隆二	川崎市立宮崎中学校教諭

## 〈研究助成 2〉

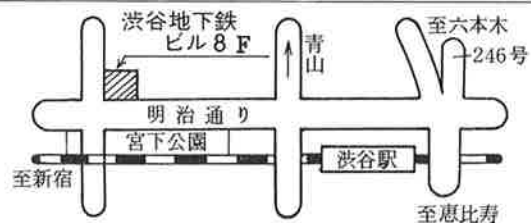
助成集報（第4巻）・（第5巻）が完成しました。  
第4巻には研究成果7件、第5巻には研究成果1  
件が収録してあります。内容は下記の通りです。

研 究 課 題	代 表 研 究 者	所 属
〈第4巻〉		
● 多摩川流域の環境浄化に関するシステム分析	高 橋 三 雄	成蹊大学経済学部教授
● 多摩川水系における水生生物生産システムの解 析と生産力のアセスメント〔多摩川水系のあり うべき魚類の生産力〕	多 紀 保 彦	東京水産大学助教授
● 多摩川およびその流域における栄養塩・有機物 の生物地球化学的研究	小 倉 紀 雄	東京農工大学農学部助教授
● 玉川上水系に関わる用水路網の環境調査	渡 部 一 二	多摩美術大学建築科専任講師
● 多摩川およびその周辺地域の植物に含まれる微 量金属	一 国 雅 己	東京工業大学総合理工学研究科教授
● 多摩川水系・大栗川流域の生態系動態に関する 地域生態計画的な研究	黒 川 直 樹	東京都立大学工学部助手
● 多摩川の水質評価とその将来予測に関する研究	三 島 昌 夫	厚生省国立公衆衛生院・室長
〈第5巻〉		
● 多摩川集水域および沿岸汽水域(東京湾の一部) におけるエコロジカル・プランニングの方法と 実践〔多摩川集水域における適正な土地利用の あり方について〕	磯 辺 行 久	工学院大学工学部講師

去る6月23日、国会図書館から、当財団の研究  
成果を寄贈してほしいとの要望がありましたので、  
助成集報（第1巻～第5巻）・助成集（第1巻）、

多摩川'75総集編・資料編から多摩川'81総集編・  
資料編までと「川」を贈呈いたしました。

- ・ 発行日 昭和56年9月1日
- ・ 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団  
〒150 渋谷区渋谷1-16-14  
(渋谷地下鉄ビル内)  
TEL (03)400-9142



\*印刷所 雄文社 〒336 浦和市常盤9-11-1  
TEL (0488)31-8125